

普及啓発・人材育成推進方策検討ワーキンググループ
第6回会合 議事要旨 (案)

1 日時

平成24年4月4日(水) 13:00～15:00

2 場所

内閣府別館9階会議室

3 出席者(敬称略)

| | | |
|-------|--------|----------------|
| (主査) | 小泉 力一 | 尚美学園大学大学院教授 |
| (委員) | 浅川 玲 | 日本放送協会 |
| | 伊藤 求 | ニフティ株式会社 |
| | 尾花 紀子 | ネット教育アナリスト |
| | 勝村 幸博 | 株式会社日経BP社 |
| | 川上 隆 | 学校法人岩崎学園 |
| | 清貞 智会 | グーグル株式会社 |
| | 小屋 晋吾 | トレンドマイクロ株式会社 |
| | 近藤 則子 | 老テク研究会 |
| | 里中 慧 | 株式会社ミクシィ |
| | 杉浦 昌 | 日本電気株式会社 |
| | 高橋 正和 | 日本マイクロソフト株式会社 |
| | 千原 啓 | グリー株式会社 |
| | 長島 武生 | 日本電信電話株式会社 |
| | 西本 逸郎 | 株式会社ラック |
| | 平尾 芳郎 | ソフトバンクモバイル株式会社 |
| | 藤本 浩司 | 株式会社電通 |
| | 前田 典彦 | 株式会社カスペルスキー |
| | 武笠 貴史 | KDDI株式会社 |
| | 村上 智 | 株式会社シマンテック |
| | 本橋 裕次 | マカフィー株式会社 |
| (事務局) | 占部 浩一郎 | 内閣審議官 |
| | 泉 宏哉 | 内閣参事官 |
| | 木本 裕司 | 内閣参事官 |
| | 木原 栄治 | 参事官補佐 |
| | 花岡 一央 | 参事官補佐 |

4 資料

資料1 普及啓発・人材育成推進方策検討ワーキンググループ第5回会合 議事要旨

資料2 平成24年度の「情報セキュリティ月間」に向けての課題等

資料3 今後のスケジュール

参考資料 普及啓発・人材育成推進方策検討ワーキンググループ委員名簿

5 議事概要

(1) 平成24年度の「情報セキュリティ月間」に向けての課題等

事務局より資料2に沿って説明し、委員による意見交換が行われた。委員等からは以下のような意見が述べられた。

①国民を守る情報セキュリティサイトについて

- メディアで取り上げてもらってサイトへの誘導の手段とするのは有効だと思う。月間の話そのものとして取り上げてもらうのではなく、政府が注意喚起していてどう注意すればよいかはサイトに書かれているという形だったため誘導が多かったと考える。
- 時間帯による見方もあると思う。夜のアクセスが多くて昼が少ないため、おそらく家から見ている人が多いなどという分析に繋がる。
- アクセスの時間帯による傾向は、会社からのアクセスであればワーキングタイムが多いと予想される。
- ほかの政府系サイトのアクセス比率と比べて、情報セキュリティサイトだけの特徴があれば、特徴的な人にしかリーチできていないなどの分析ができると思う。
- 訪問者の比率については、月間以外の特に何も無いときの比率と比べると違いが判るかもしれない。
- 初心者ページのところは官房長官談話のタイミングでアクセス数が上昇している。談話で初心者向けの話をしたため、アクセス数が上昇したのだろうという印象を受けた。
- サイトを見た人がどういう思いを持ったのかとかいう定性的な意見を入力できるフィードバックフォームのような仕組みがあれば、次年度以降の取組の参考情報になると思う。ツイッター等のコミュニケーションを取るプラットフォームを使うのも一つの手かもしれない。
- PDF ファイルをダウンロードさせるのではなく、サイトのコンテンツとして作りこんで、情勢が変わったときに更新することを繰り返していけば、定着する層が出てきて広がっていくのではないかと。

②平成24年度情報セキュリティ月間において実施を検討すべき事項について

- テレビ等を使ったマスメディアへの露出については、CMのようなものは費用対効果の面であまり効果が望めないと思う。基本的に情報セキュリティは特定層からの波及効果を狙った働きかけに適しているのではないかと。

- ゴール設定がないと、どれもよいからどれもやりましょうということになりがちである。
- 情報セキュリティおみくじを作ってはどうか。一回クリックすると「今日はメールに気を付けようの日」などと出てくるようなおみくじを作ると、みんな毎日アクセスしにくるし、子どもから大人まで遊び感覚で意識づけることができるのではないか。
- 先ほど属性別向けへの注目がよいのではないかという意見があったが、一方で万人向けも主たる目的だと思う。
- テレビ等マスメディアの利用については、広報的な内容を放送でやるのは難しいのではないかと感じる。官房長官の発言が非常に大きく受け止められるような国民の関心ごとであれば、ニュースになると思う。
- 情報セキュリティのように、現象も取ってもらいたい行動も幅広いものは、15秒のテレビ広告には向きづらい。マスメディア向けには、テーマと機会を増やしてとにかくたくさん情報を出すこと、広く投げ込むのと個別にプロモートするのとを上手く使い分けることが、できるぎりぎりのところではないかと思う。
- 情報セキュリティ月間自体を成功させることが目的なのか、それとも情報セキュリティに対する啓発あるいは別の何かが目적인のか、それに対して内閣官房が自身の手でやるのか、コントロールするのか、盛り上げていくのかという立ち位置がわからない。ある程度筋道と目的と定めてもらえるともう少し活発な議論ができると思う。
- 政府が抱える今のセキュリティに対する課題、明確な目標、意思がないと、セキュリティのためのセキュリティになってしまい、情報セキュリティ月間というフレームワークを持ってきて、じゃあ中身はどうしましょうかという議論になってしまう。
- 一義的な目標は、情報を上手く使って生活を豊かにしていくというポジティブな面を推奨していくことだと思う。そのために気をつけておかなければならないこととして情報セキュリティがあると考えて、上手く目標設定できればよいと思う。

③平成24年度情報セキュリティ月間の基本的な考え方について

- 大前提をICTの利活用において、リスクへの対応をどのように普及啓発するかが我々のワーキンググループのミッションであり、ICTを活用している人たちには9ページの目標の設定でリーチしていくのだろう。一方で、知らず知らずにICTを使っているけれど極めて危うい人たちもいる。この層にどうリーチするかは別の課題になる可能性もあると思う。
- 国レベルで今こういうことが一番の問題だという何かを見つけないと、議論が分散してしまう。議論が広がらないように、一カ所に集中できるような目標を設定したほうがよいと思う。
- 目標設定のところはもう少しブレイクダウンして方向性が付けられるとより

よいと思うし、もう少しテーマを絞るところも皆さんがおっしゃるとおりだと思う。アンケートについては、月間をやる前と後とで違いがわかれば一つの効果検証の仕組みということによりよいと思う。

- アンケートは、国がアクションをした前後で何が変わったか、年間だけではなく経年変化でどう変わったかというメッセージも必要だと思う。
- IT 活用におけるゴールとしては、自律的に IT を活用する国民といった部分が必要だと思う。そこがぶれると全部をまんべんなくとか、非常に幅広い視点になってしまうのではないか。
- 政府はディテールなところをやるのではなく旗を振ってほしい。あとはそれぞれの立場がディテールなところで活動して、その成果として全体のビューが広がっていくような枠組みを考えたほうがよい。
- 目標として、情報セキュリティへの関心を仮に 10%から 20%にしようという数字を一つ持った上で、例えば年齢層に分けて方策を出し、それぞれの方策ごとの個別目標を全部合算して最初の 20%となるようにするなど、具体的な設定をしたうえで、方策を出していくと加速すると思う。
- ターゲットの切り方については、年齢、性別、職業、ライフステージのほか、享受している価値や便益という観点も考えられる。IT を使ってポジティブな価値を受けている状態が、ネガティブな状態に転落する可能性があるということに軸足を置いて、ターゲット、メッセージ、伝え方を考えるのも一つの切り口である。
- シニアネットでは、いわゆる情報ボランティア活動を県の警察本部と連携しながらやっていこうと思っている。また 10 月には、日本と米国と韓国とオーストラリアのシニアネットと連携して国際情報ボランティアフォーラムをやろうと思っている。皆さんの中に一緒にやろうとか、興味を持ってくださる企業や組織があればありがたい。

④平成 24 年度情報セキュリティ月間の開催時期について

- 10 月の内容によるが、企業の立場からすると、少なくとも私たちの会社では別部門になるため、10 月と 2 月と両方あっても構わない。むしろ国際のほうにも広がって結構なことであると受け止められる可能性がある。
- いずれにしても決めてもらえば、それなりに情報も集まってきて活性化するし、我々も加速すると思う。
- 2 月の取組とは違う形で 10 月も実施するならば、2 回も着目を集める時期ができて、喜ばしいことだと思う。取り組みの基本方針さえ固まれば、具体的な取り組みは民間で検討する方向で良いと思う。
- 10 月の国際的な取組については、日本で活躍しているグローバル企業に意見を聞ければ、各国と連携しながら日本の特徴をどう出すかというような考えが得られるのではないかと思う。
- 情報化月間との重複については、ベネフィットの部分とそれをセキュアに使う部分ということで、コラボレーションができるのではないか。

- (2) 今後のスケジュールについて
事務局より資料3に沿って説明。

－ 以 上 －